



八王子車人形西川古柳座
説経節の会
八王子市

竹間沢車人形保存会
三代目若松若太夫
埼玉県三芳町

川野車人形保存会
奥多摩町

伝統芸能 車人形三座競演

2023 6/3 土・4 日

開場 13:30 会場 八王子市芸術文化会館
開演 14:00 いちょうホール大ホール
(JR八王子駅より徒歩20分)

プログラム

* プログラムは変更になる場合がございます。

● 川野車人形保存会

6月3日:二上り説経淨瑠璃 日向景清一代記「獄舎破りの段」
6月4日:日向景清一代記「人丸姫道行の段」

● 竹間沢車人形保存会

日高川入相花王恋闇路～安珍・清姫悲恋物語～より
「日高川渡し場の段」「清姫怨靈の段」

● 八王子車人形西川古柳座

出世景清大仏殿記「景清目玉献上の段」

チケット

全席指定・未就学児入場不可

発売日	友の会 2/15(水) 一般 2/22(水)	料金	友の会 2,700円(税込) 一般 3,000円(税込)
-----	---------------------------	----	---------------------------------

[窓口販売] (9:00～19:00) 発売初日は10:00～

●いちょうホール 042-621-3001 ※月曜休館(休日の場合は翌平日休館)
●南大沢文化会館 042-679-2202 ※月曜休館(休日の場合は翌平日休館)
●学園都市センター 042-646-5611 ●J:COMホール八王子 042-655-0809

[電話予約] (9:00～17:00) 発売初日は13:00～

(公財)八王子市学園都市文化ふれあい財團 042-621-3005

[インターネット予約] 発売初日は13:00～ ※ご利用には事前に登録が必要です。
<https://www.hachiojibunka.or.jp/ticket/>



財團HP

新型コロナウイルス感染拡大防止対策について
2023.1.31現在

皆様に安心して楽しんでいただけるよう対策を徹底して公演を開催いたします。ご来場の際には、マスク着用、検温、手指消毒、3密防止、咳エチケットにご協力をお願いいたします。37.5度以上又は黄緑色以上体温の高い方はご入場いただけません。また感染等の状況により、開催日時や実施方法を変更、又は中止する場合があります。皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。※最新情報はHPへ

主催・予約・お問合せ (公財)八王子市学園都市文化ふれあい財團 TEL 042-621-3005 (9:00～17:00)

後援 八王子市、八王子市教育委員会、奥多摩町、奥多摩町教育委員会、三芳町、三芳町教育委員会

川野車人形 — 奥多摩町

川野地区に代々伝わる人形芝居で、三輪船形のロクロ車に黒子の衣装の人形使いが腰を掛け、手足の指を巧みに使い、淨瑠璃の語りに合せて人形を操ります。元は素朴な人形使いから始まり、二人で一体を操る技法から、現在の一人で操る車人形が創設されたと言われます。

古くは宝暦から天明、文政年間にかけて造られた「かしら」が保存されており、その歴史の古さを物語っています。令和5年(2023年)1月に国の重要無形民俗文化財に答申されました。



埼玉県三芳町 — 竹間沢車人形

竹間沢に車人形が伝えられたのは、竹間沢の神楽師・前田左吉(芸名は左近)のもとに、西多摩郡二宮村(現東京都あきるの市)の説教淨瑠璃6代目・薩摩若太夫の長女ティが嫁いできたことがきっかけとなりました。若太夫は人形芝居の座元であり、ティも自ら説教節を語ることができ、人形芝居道具一式をもって前田家に嫁入りし、埼玉県三芳町に人形芝居が伝わりました。

昭和46年(1971年)に、埼玉県教育委員会が実施した人形芝居用具緊急調査によって、前田家の納戸に眠っていたほこりまみれの箱の中から、車人形の芝居道具がほとんど欠損することなく発見されました。この時、現当主の前田益夫氏には車人形に関しては何も伝承されておらず、車人形を演じたことがある近氏(叔父)に車人形の盛んだった頃の話や操り方、説教節にいたるまでを聞き、車人形を復活させました。その時、近氏は目が不自由になっていましたが、まるで昨日の事のように記憶が鮮明でした。翌年には復活公演を開催。以降、保存会を中心に毎年の定期公演や学校での体験教室など、車人形の普及、後進の育成に励んでいます。令和5年(2023年)は、復活公演から50年の節目となります。

八王子車人形 西川古柳座 — 八王子市

西川古柳座の前身は、瀬沼時太郎(二代目西川古柳)が、十八、九歳の頃、初代西川古柳に弟子入りしたことから始まります。大正末から昭和初期にかけて、三田村鷺魚、平音次郎、河竹繁俊らの支援を受けました。はじめは「西川連中」という名称を使って興行していたようですが、昭和十三年の時太郎の記録では既に「八王子車人形」の呼称を使っています。古柳座の芸能は、初代西川古柳や、江戸の最後の人形遣い吉田冠十郎、文楽の吉田文昇らの指導を受けています。さらに、伝統的な車人形の操法を基礎として、新鮮な工夫を重ね、昭和五十六年には乙女文楽の技法を取り入れた「新車人形」を考案しました。また、技法のみならず、首や自由民権関係の衣装を始め、豊富な用具を多数保有しています。さらに古柳座独自の用具なども考案して新作の上演も可能になります。こうした様々な工夫を凝らし、伝統的な人形芝居を伝承するとともに、西川古柳座は日本各地、さらに諸外国にまで、車人形の技法を通じて、地域文化、日本文化のあり方を将来に示しています。令和4年(2022年)3月に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

